

農学部

生物資源科学プログラム

取得できる学位 ★学士（農学）

■ プログラムの概要

本プログラムは、農業生産の現場に直結した資源植物・資源動物や農業経済について学習を深められる総合的な教育プログラムである。資源植物の育種・作物・園芸・病理の領域、資源動物の生産・ライフサイエンスの領域、さらに農業・農村・環境に関わる経済やその関連領域にまたがる、農学の根幹となる専門的な知識を習得することができる。

■ 人材育成目標

本プログラムは、バイオテクノロジーを駆使した動植物による農業生産と持続可能なシステムについての幅広い技術・知識の修得および生命の尊厳への理解を通じて、農業関連の企業、食品・流通等の業界および農業関係の官公庁・団体・試験研究機関で国際的な視野をもって活躍できる高度専門職業人・技術者・研究者等の人材の育成を目指している。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) 農学に関する広い学問領域の一般的基礎知識を習得し、高い倫理をもちバランスある人格形成に資する。
- b) 農業を基盤とした経済活動の基本的知識を習得し、地球的規模からみた現在の農業について理解できる。
- c) 栽培植物のバイオテクノロジーや生育特性及び基本的な栽培管理法を理解し、地域農業の成立条件と関連させて説明することができる。
- d) 資源動物の生理・生態機能の特徴を理解し、効率的な動物管理と動物生産の仕組みについて説明できる。
- e) 大学で学ぶにあたって必要な基本的能力を修得する。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 動植物の生産管理から流通・加工・消費に至る一連の過程を総合的に分析することができる。
- b) 動植物生産、地域、環境に関する課題を国際的視点から把握し、問題解決に向けた能力を身に付けることができる。
- c) 食料・農業・環境問題への関心を深め、各自の問題意識に沿った情報収集および分析の能力を修得する。
- d) 資源植物または資源動物の遺伝、生理、形態、生態的特性を理解し体系的に習得した知識から、先端的技術を活用した効率的な農業生産を論じることができる。

| 3 | 汎用的能力

- a) 英語等の外国語を活用して会話や文章で日常的なコミュニケーションを図ることができる。
- b) 自分の考えを図表などを用いて効果的に示せるとともに、他者と論理的に議論できる。
- c) 目標の実現や課題解決に向けて、合理的かつ具体的方策を企画立案し、遂行することができる。
- d) 多様な情報源を用いて情報を正確に収集できるとともに、得られた情報を正確に分析することができる。
- e) 自分の考えを正確かつ論理的に文章で表現できる。
- f) 体系的に修得した知識を基盤として、多様な事象に対して応用して思考することができる。
- g) 自分の考えを正確に他者に伝えることができるとともに、他者の考えを受容して、相互の考えを共有することができる。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 社会に対して関心を持ち、新しい知識・技術を身に付ける意欲を持つことができる。
- b) 他者と協力・討論をし、共通の課題解決に取り組むことができる。
- c) 課題の解決に向けて、自分自身で解決策を見出し、それを実行することができる。
- d) 目標の実現や課題の解決に向けた行動を粘り強く継続して行うことができる。
- e) 動植物の管理や研究室活動を通じて、規則正しい生活習慣を身につけ、社会人としての基礎的な資質を身につける。

■ プログラムの履修要件

生物学を中心とした自然科学に加え、社会科学を含めた幅広い基礎学力を持ち、農業や食料問題、環境問題に深い関心を持ち、積極的に勉学する意志を持つこと。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

1年次には、学部共通基礎科目、大学学習法、教養教育科目を通じて、基礎学力、転換教育、教養の醸成を行う。2年次の前半では、学部共通基礎科目、教養教育科目を通じて学部に通じた基礎的知識を得るとともに、フィールド科学分野の体験学習を行い、農学部の学生としての基礎的な素養を修得する。2年次の後半では、動植物の生産から流通・消費に至る生物資源科学の専門の基礎的知識と分析能力を修得する。3年次には、植物・動物・経済の各分野の基礎から応用までの展開を図り、実践的な应用能力を養う。また、4年次では大学院教育との連携を意識しながら4年間の学習の集大成となる卒業研究を通じて、専門的な総合的能力を養うとともに、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等を養う。